中村俊定文庫
文庫 18
460

元、とのさまこさへ（表小者）
ナハ水戸の軍本デス
（金坂・桂井未羽氏ヲ還元モ）

中村俊定文庫

蕉門十哲伝

上巻目録

吸露庵綾足著

一 俳諧物語の条并自序論ひらく

一 行歌の条

一 上代の行歌

一 中世の行歌

一 萬葉集の歌と以て行歌を為る条并俳諧の行歌をあはつらふ

一 發句と云ふ事

一 續句の事 并 韵字をあてふ変わけたる

一 切字てふ事 附 語の事 并 能順もて代前伝

一 仙諧歌と多くいはまわるてふ事を あけつる 并 連歌の行歌

一 體用の事とし記すべき事

右の

次露庵後足行歌ノ詞ノ冊子数次也 廿冊子

其中ニ予ノ資備ハしるし予人ニ故ニ寔ニ記ス志趣

ヲヲアツカフ事ハ又者以下ノ仙風ノ谷メ者

節ヲニノ事ニ到テハ宗鑑貞徳ノ譏レ

代貞享蕉門情風ノ亜レ無名ノ仙諧ニ到テハ

年ニ陳ル所ナシ還テ古シトテ荷擔ノ者ノ如ク

然シニ語ニ語リ詞ニ相違ナクニハアラズ依テ秋

同風ニ逝ク人ヲ一ツ見恋イアラン事ヲ恐レテ

一二ヲ附言ヲ以テ紙述ハすルヽノ道ヲ明ントト欲ス

其上話中ノ一語ニ吞ヘセテ叶ハヌ一言アツテ
一夜俄ニ筆ヲ添ユルヲ読見解安カラシガ
爲ニ节々詞ハ片假名ヲ以テ書シ又文ヲ
飾ル事ナシ

明和七年臘月十八日

加賀　牛山人樗庵　誌

と波志く佐　上巻

四方の國中にたちや俳諧風俗の片歌よみならふ
人々は向く唐川これ綾足ありてその上とすられ
やりこれはありけりしよりきあしやまとぶりの片歌を降
朝よ夕べに是をよみ秋としく是とし　是代わりに
さりしにも東より西より南よりは北より何となく
流世の中を初きしは縁に似るまで思ふて思ふく
惑ひしく其事わきまへかみ見れみる物を世俳諧なる意をも
事にちる違ひをしれたりしに片歌を代へ誉の事是
ようやく世の人ひとは悦く何事にかれらの為ある　此冊子を

（朱印）

されはこそ人を齋(ツカウ)事をおろそかにすへからず
今の世はたれよみのふならい八百日(ヤヲカ)往(ユク)濱の真砂
まゆらへしさハいとおしく沙隠(カク)れて何とやらむ
いふ其外隠さめぐると云ふと書居(ツヾ)にまかりつれる
むかし木ニ竟(エ)らせて世ニ漏くもん何といふ物と侍る也
言ふ跪彼にふしともあしきと是を名つけてふみ
但りて五十年しへるゝ事たるんくなりを善(ヨ)つ
コトハ丈ハ又定テ諸家コタヘヅアリヌヘシテ思ヘリ
徒ら初メ禪室ニ入ル年アリ奈何ゾ熟シテ蕉
門ヲ悟ニナシリハ東西ニ同イ南北ニ同ツカ焉ゾ遅テ

芭蕉翁ノ心魂ヲ不見俳諧ノ無名ナルヲ不知シテ
浮世ノ俗ニ諂ヲ汲テ深(コヽ)ニシテ卑言トス惑ヘル哉我
蕉門ニ於テハ予(ヨ)ガ詞アタル所ヒトツモナシ

あらやましねかはくは余亦自あけつらふ

凡いにしへの書をかれさらくさくさ記載(ノセ)なるもあれと
古事記之一つまは長歌(ナカウタ)二つまは旋頭歌(カミツメシモツラヌウタ)三つまは短歌(ミジカウタ)
四つまは行ふるわやまと風俗をうけくるまでの
ならひとしるへ(胡)歌志(咲)歌わかれ(花)たるはいと
多し又後の世まであまねく俳諧といふものしかるを(俳諧)家集
まかせ用ゐるは古今集がはじめにしてその後の集まで

這出多もみな世集ひまるなとうれも彼
集中の仏諸ふるを正風ものもくいへんさは
仏諸ふるれかいしもしんぶんさて今の代仏諸
とゝ物あいとを是とゝ連歌の範をつくるく
作法ことく詠むを仏諸の連歌とゝ仏今は唯
仏諸ものゝ唱ふ是も仏事とおもひ誦れもの

世条大略こゝはいかに世の仏諸ゝ漢言トイ、古今集
より始れる事也へ論アレに事多端に及ぶ依ゝ略ス
仏諸ゝ連歌より出タリトスル俗詞こゝはいかに也蓋門
こゝ別に論アリ略仏詞ゝを論ずこゝ不ずゝ人ト

見へ多ゝ又仏諸之連歌トゝ事今何しの風こゝそ
事ゝ多ハヨ俗流ゝすゝしこ人トゝ思フ
家ゝ何ゝ仏者ゝ何ゝ曰何ゝ仏諸ゝ
くあゝしゝ人皆ゝ通ハ知ゝ
事ゝ
ゝ言ゝ道ゝ街ゝ
臺詞
わさゝ

自問自答こゝ
臺詞こトトスゝ誠こ恥アラ我ゝ俗詞ゝ
ノ分より劣レリト思フ見ヘ魂ゝ人ゝ事ゝ知ラサレハ也

或ハ言ハいわれと朝と云文字ハ語りにして棘鬣魚
ノ文字ハ棘ハ魚ノ鬣ノ如ク利ク物ヤケ来ルヨリ
ヲ付ケ奉ル上ノ方ヘキリ物ノウンカキブ棘鬣魚
ト書ノ如クニ言ハハ詔ト云ハレ詔ハ言ハ
詔ハレタル事ハ今ノ俗語ニハ唱ヘ能シトモ云
ヒシカシテ居ケレ共日是ヲワラフ俗ハ
ヲ事ハ遠ハ朝ニ用キ文字ノ事ハ朝ニ用キ
字異ハ須ラク漢ニ用ル物ト文字トタ
ヘテ用ル言霊ハ和ハ国ノ
ハ言ハ文字ハ後ナリ文字ハ言ハ

文字ハ古ハ言ハ古キ人書来ル
ラク通ハシ言ハ是ハ物ト云ヒ言ハ
上ノ代ニ言ハ言ハ多ク云ヒ今
ハ言ハ言ハ居ケレ等ノ云ノ
道ニ言ハ其言ハノ例ニ遠ハ
ノ事ハ言ハ言ハ
ハ条ハ文字ハ事ハ先ハ是ニ言ヒ言ハ
言ハ先キニ文字ハ後ナリトハ思ハ
トモニ言ハハ先キニ文字ハ後ナリ何ノ聲先キ
ナラザル国アラヒヤ又我国ノ詞トモ唐土ノ文字ノ

国トスル事ヨリ世人ノ云フ事世ナレト徒ラ論ナリ
向上ノ議論アレハ事外ニ及ヘル義ニ昧ス
又おほやけを見る時いかゝ(仏語をかいたいと呼へ
く大音を上ケ云フ事あらくも仰代の仰延ふ人有だ
い是等も賤しき事を何のさ迚し給り変
實ニ尤なり故ニ必ず不通ノ議論を世ニ行ハ
ル事ハ人ニケしに答メナキモノ世人ノヨリ容ル
所ナラズヤ
志ハあれと寺敬ハ世ハ遠出くやと
く月日をとゝ過ぎ年月をとゝ又わらこちゝ次ひ

ときれとを問ふ旅くしておかを一枚の板をもあるく
すはる何あるや急まくも忘れと天の限い泳童雲
ノ向伏きくみ地のかきい谷くれ狭ふさ もて
とも大の荒れいれ多 直ふく
戦ノ位うに第木も新うば法風もおさまれる
沖代ケしい子を言ふ斯まく貴ノ仰代ま行ひ
をりく言ハ繁を示しをれを世をれを少し角まれを
待く直ル方ト人ちさの事を欲せまし
此條ノ文章ニ為ス雅ヤ論ト貴覧スベシ後生ハ哉
而シテ議論ニ到ッテ拙ト事イカニソロヲノ云ハ

此代ノ責ヲ変ジ久シク曲ヒシモノハキノフ近アリシト云ヒ
似タリ芦間ノ解出ノ横ヲ又正道ナシ唯形ノ直曲
捨テ心ノミノ雅不雅ヲ論ジ玉ヒ
續日本後記ノ中ニ興福寺ノ僧長歌ヲシテ天皇ヲ
ホキ奉リシヨイヒシ事ヲ石太臣乃麿ノ石ハ
饗ヲ賜ハラヘヨクサシ物ヲ物ヒ言ヒ申シ
ゆゑ共記ニ曰李世陵遲ノ朝道已衰今至僧中頭在
古語可謂禮失則求之於野ニ是仁明天皇
ノ此時ヲソノ比既ニ此ノ如クノ事ヲモテ人ヲ
今ノ世ノ人ヲ右ノ如ク道ヲ

此代ノ人ハ正シク正シク貴ク
例ヲ引キ事ヲ知リ時ヲ弁ヘ世ヲ見テ人ノ如ク
貴ク思フ事ハ我如キノ陋キ者モ文字ノ道ニ
文ヒ君ノ御所ヘモ似タニ仕ヘ文ヲ仁明
帝文學僧徒ニ語ラヒナケキ玉フヨリ今ニテハ
猶スラニ侍ラントノ議論ハアメラズ其コトノニ設ケ
セヒ今ハ鳥獸ヤ文學セニ依テ文字罪ニ落マ上ニ
ニアカラシマヒヨカ知ル所ニアラス盛衰ノ論ハ別ニ
高眼ノ人有テ知ラン其上道アル代ノ御ニゾ
マツカレトモ出ル尊大ナリ

片歌の条

片歌の事は、紀貫之二夜百夜なりとぞ問ひ給へば、冊子を木に彫りて世に出だし、変をあらかめそが中よりあらはれたるなり。

片歌の冊子は、始めこの片歌の道のはじめとなり、越後今町九人に對し起心条にアリし様に其人に對せし心得ガル事トモ伺ヒシ今二夜百夜ヲアケテ此冊子ヲ云ハだしハ根ハ捨玉ハ又ナトヽ云中ニ有ルカナヲ云ハし

凡片歌の物ハ代を異にしたれば今ハさ間たるべきなり。

人伝語ヲ聞キ及ブ片歌ハ短言ハ片歌ハ世十九言ハ旋頭歌ハ片歌世世の人ハ

[illegible]（鄙風伝）[illegible]

[illegible]（初風伝）[illegible]

[illegible]

巻の十六ハ出るごとく紀ヲ[illegible]ハ一万二葉

[illegible]

[illegible]ハ三十一言ハ[illegible]

[illegible]ハ又今ハ世ハ[illegible]

わわ[illegible]（清行者）[illegible]

皆これ短歌ヲ[illegible]ハ片歌も又[illegible]

うみつ代ハ片歌ハ[illegible]詞ヲ[illegible]

[illegible]

正しく心のまゝに行き物なれい言葉はさゝ知アラ
後々ゝゝゝゝ事ヲ形しいゝゝ言ゝの知ゝゝみて
なれい上代ノ行方ヲ又天暦ヲはノ行方
もゝべきこい行ヲくゝゝ言ゝ今さはゝゝかゝ
なれい是等をなむ人々知アラ行ゝゝゝゝ
此条ハ理リセ仰諸ハ用ナケレハ不論セ也に我
思フニ行方ハ本歌ノ人是シナス別ニ家ハアラス
古人行方ノミヲ以テ一家ヲ立タル人アラハ告玉ヘ若サ
しハ子ヲ送リニ新式ヲ好ム者トセン
意ニ依テ思フニ発角我カ説ノ所ノ無形ノ蕪門ニ関ル

玉ヘ詩歌連詠皆我内ニアリ思ヒヲ心海ニ馳セテ
自由限リナシ今ヲカ正ル姿ノ如クニミヤビナルハ上代
ノ行欲セト誰モ凡思ヘリ是ニ依テ芭蕉ヲ移ス
意ヲシトフ故ニ今ノ蕉門ニ暫ノ古調ノ名アリ色
に衆人古調ノ源ヲ不知ヲ年ハヨリ捨テ下リテ
又早風ノ仰徳トナル者多シ誠ニ悲シムベシ

上代ノ行欲
かけくもいやさらえてきむ 斯 舎
是ハ橿ノ原ノ宮ノ行欲セ也 神武天皇 さかを
大和ノ高さし野を七人の ゝゝゝゝ

けるをみれいしていやさかとたて
りをそのまろかむしるを　事は古事記よりくはしく出
世紀日本紀とは不出

をけやしわきへのうちくもたちくも
是は倭建命伊勢の能褒野にて病
りをもしに時をもまろへ　古事記景行記に出
日本紀の旨とは異なり

をはしけちをを　千年
あれまかりし　世行年中の夕六言
なりけるを　古へのを定夕

四言六言なりけり　竹の夕暮の夕
又ちの所事なり　世行年日本記には不出

をはくしなわっるをこをかまくしいむ　居よ　運　往
あれは後の岡本の宮に行幸なれ　永明天皇
天皇能野の　探ふ　して　行幸　陽しく
さかをとにたまひし皇子かなし
出りし　其は子かくは陽さはいそら
りはをふ旅をた出りむをとる
は言なり　是は古事記日本記共よりる

海人

いまはしらずや　昔日の人のもてあそびし物語を泪ながらに

これい竟道の雅部なと　大唐新の皇帝

とかくみよの法りをもとめ時海人のいさり

をもとめしに竟道ときれい新法ときれと

わを新法ときうれど竟道いとあるとを

かけじへの論されしかと捨て彼海人

道を伏らく法をかるく說よ　女房と

らくい言ばかりを說　日本記仁德天皇十年記にハ不ズ

世条い天に理りを也　我蓮門寺ハ是等の數章ハ

以ア神佛ノ於リ宗ム但ア欲トテ尊ムニハアラズ

反歌長歌皆アケ尊ム也ト形ヲ捨テ心ヲ尊ト

情ヲ仰ヲ習フガ高ナリ

中世ノ仆歌

同上やとして神も佛も春の日に

おれを天暦ノ代の御制衣を　村上天皇

入しを時ニ法ハ〜やい今ハ〜ハ君と

愛しぬい生ましいかくしをもとめ言

ひくだもちの三歌ニ法を玄旨

是いしれ行ばかりの姫ノ人

のひうは自ア言ノ者也

世の常のをりはたらめの花
こいかな大将實資人のすゝめ法生院殿と
折くはのうはにゝ実ぶかなる
雨降しいきづとさてゝまぬさきらら
よみ人しらずにあるを見ハ雄まを篇ま
入もらぬ横雲ゆゑをあらぬ
とゝ高雄とゝあらふ詞ハ意
多と上代の仮名中世の仮名ものの
しあれと意にたゝず
此条を論ずし皆見る人ノ時トシテヨミケルナリ

多年トセハ常ノ三十一字コソ然ルヘキ形ナリ而ルニ
トテ新ク探シ求メ玉フハ無用ノ苦ニアラズヤ
萬葉集のかゝりて仮名ものの仮名
あるは条平仙詩ゆゑの仮名
変りかゝ集ハ字ノ中ニ十七言十九言ハミ
高くしたしきもとみなかなをぬきくたは
出てその中に長歌ハ五七言ハ出ものも
あるとも此さ仮名ものへくかゆゑ人あと
見られあるとしたゝ結へ
歌ものゆゑ長日ゆくれ長

梅のなかにほふ白さかり陸
ふしぬよ耶（莫）ひとり（呼）みれば
はるへ妹をあきぬてふ
多くれど袖さへ月に
かみつ開ぬ書よ文くれど
三月のうやもみたれ
移ろふれ思ふの家根を山ち
高山よたに人さそふ
夕されば月（明）ちし東ちり伊駒山
雲ちり隠れ

妹うゑ（植）ちの花を散はやし
さくれはうきくれ移る佐保川
秋風のうちくたくしの花の
庭内ふれ色ちる山陰水
秋の田の穂のへ吹きし朝霧
夕（霧）こそ霧なふ立て朝戸出
春されば吹く風ちめの
霞ち伊仕の梅の花
月の出て来わよる白雲所住の山
古郷いと遠くもちにけ（二重）へ万

春深川を何がちよと何うも
山ふみ中旨かくれぬ清男くら
秋の浦に来るぢさし波かへりは
芽を見ぬく花さらら尽れつ不見れ
且ハ咲秋はこひある秋ふの花
雨晴れくきらく照でぢこぬ月秋
桃や萩の花咲中ふ新ま
秋ごとふ流まの釣み孫寺まふら
延陀宗
みし胆く滝もとくま流しは
ならが見らら同まえ漂うは露ハ愛

湖戸出まきみつあやひとぬつ流ら涼原
思られさ雨今陳から乃事まみ汁稀ふ兮りとも甚多例
又今柳ね短句乃さ雨にはぢむら好て
但シ蕉門古調俳諧ニハ似タリ是等ヲ寄セ玉フハ
又例ノ形ヲ取ル也我無形ノ俳諧ニハ是等ハ心中
ノ古草也無外ニ一話場ノ議論アリ具眼ノ人知ヘシ
ある言との日俳諧御かの行句よしと世す史へ身もれ
みえしいはもつとくの心はるや何られ日にもとくの心くわ
いつまでをへらせされど今宴にはまそきねないうまと
ぬれぬかりく乃言の気ふ人れハおもりく とわけ

然し又俳諧ハことくら因物をしむれまく
あるふ陰しの色々むきくまくひされて宿よ
といひを翁ふまへてうけ給ふたまふ同じ
くし是なきらしくかな

實もなアルヘシ　ラケヒカ又者両ナルヘシ詮ナキ
事ニテ饒ハ別事ナケレハ不論セ

發句といふ条

発句ハ上五言をいふなり惣して十七言を発句といふ
いつしか世はしれたる歌徒くされは皆たる
発句のたはとるまへてかはるいふなる又本句と謂し
をなまみされくなる唱へしいかな句ハ十七言まされ
十九言まされ今いふ上の句脇して短句と唱ふハ
理りなり俳して短なる五はうひらく一首なり
片歌なとつゞひしらく一くさありて既ニ可栄都多
といふ五言を句れ限すとなく旅の意とよめとはま
かくあるもれなきへてしまも其事ハわすれけし

廿条不審晴ガタシ発句本句ノ事俳諧家ノヨク
云フ俳席ニ連ル人ハ十歳ノ胡児モ知ルコトニ
五句ヲ一首トシ三句ヲ一句トスルナトカキツハタニ
解セズトモ和朝ノ人知ラヌハ有ルベカラズ　則

をか一夜語り合こそイとうれしう寄り馮人に
殺へこと下ノ條目にや

續古今事并新古今あけぼのゝ

元續古今ゝ光々福原ノ宮内卿時大久保ノ命
記をゝ書く伊頂氣余理比賣れ中御まいり
ゝ紀余理比賣此命ノ服のこゝろ
ゝ氣をゝ
ちはやぶるゝ神なりけるゝ
とゝ中のけ家内大久保ノ命言へゝ
おとゝ過たゝ
是旋頭哥れ行ゝと後
侯建命甲斐ノ坂折ゝ
とゝたけるゝ大焼ノ老人ゝ
ゝ形へゝ
其外清寧記等しみ
元のゝ
傳保ゝ
ゝ行ゝ帝時卿後ゝ

并びに（早版）ひさ（猶）むを取うべし

是短冊に書付て詠くちくさん事を伺物にて

世宝の事に侍れば行

かち人の手にぬきぬきえしわれ

しらふ

ゆゑ道坂の軍も勝ぬ

とうは詠くれども是をもて拾遺金葉

等の集に出るみな短冊に書付て詠ぶ

と聞えしかども人の目めにたゝぬ人の集また

大伴宿禰家持所詠たる詠歌ばかりは

詠ぶべし今は初へく上の句下の句れと

しるされといふなりとしたまい清寧記の

中に表和の命に短冊に五句をかきまし志毘の

臣に詠ぶこと所を清ふもの伊勢物語にいえしわれを

わるくに書て又其末に詠ぶ

又有る歌いかにもへの行方をわんせく一くされ

旋頭歌にも又短冊に記れい今の世の

腸といふ物を取の句小詠ぶ詠みるられの

例まことにしたしむ

如何ノ詞古人ノ趣意尊ム〻キ事トモ別ト詩
トシ伊勢物語ニアコトアレハトアリテ未ハナレトアル
ニテ海ヘ行カハ一時ノ戯レナルヲ見ル所ニ一家ノ
說ハ事ヲ好ム徒ナラン今ノ世聊トイフモノ是等ノ
例ニヨルトハ我蓋門孫更ニ是ヲ以テ本トシ例トス
故ニ意ノ續ク事ヲ事トシテ俗說ノ格ハ用ヰサルニ似タリ
それと物ハ物ニ詩ヲ和トスル事ヲ尊ブヘキ事ナリ
意ハ物ニ詩ハ漢和トスル事ヲ以テ
とゝ續ク所中ヨリ
詩文ハ

きハたゝ人ハ本ノ名ヲ
てゝ津を武ノ文ヲ昔
見ヲ續ク物ヲ昔ト
下ヲ物ヲ
ちゝそれヲ漢和ト
ヲ留ル事ト
詩文
ゝの物語ヲ
はゝく見ヲ
物津ヲ

物語ヲ
武ハ所ノ詩文ヲ
ヲ詩ノ文字ヲ
ヲ和ヲ物ヲ
ヲ詩文
ヲ續ク
ヲ彼聊ヲ
ヲ見ヲ
ヲ文字

人事ハ[illegible]詩字ハ[illegible]ハ[illegible]
漢和ニ[illegible]事ハ[illegible]ハ[illegible]
又續ク迷ハ事ヲ[illegible]
ハケツクハリ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]事ニ[illegible]後連ク[illegible]
立身[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ヲハケ[illegible]ハ[illegible]

連ク人事ヲ知ラサル由ハ二夜事ノ毋ルニ
ヤハリ新ノ一ツ有事也ハ[illegible]詩字留ノ支推量
ノ事ト見ル旦ツ和漢漢和ノ分ニナリ是ノ不案内ノ支ハ兼ヲ

仙門ニ入リ玉ツ中ヨリ々俗士ノミニ交ハラレケレト云ヘトモ
淺猿シ然シハ無詩字留事ノ詞ハ染ノ事ニシテ
心ノ雅ノ俗ヲ撰ムニアラズ然シハ我蕉門ノ無形ニハ
強イテ用ヒヌ事ナシハ解論アリトイヘ共我ハ云ハシ
是ハ見龍方麦林等ノ門下ノ仙人ノ若ヘズシハ有ル
ヘカラザル支ナレハ讓ツテ是ヲ侍ツ者ハ解他門
ヨリ云事アタハズシハ早ク我ニ告ケ玉ヘ我形ヲ詭ノ
ノ事ナリトイヘ共急テ是ヲ辯スベシ

仙家ニ事助語ノ事

事ニ能煩芭蕉ト対話

切字といふ事あるもさしも意なき言の葉も文字の
事はあらねどかうつねにおきれ従きれ或は二きれたま
切し三段きれなとしれといふ事ありわのれなうも
し時是等の事は不要にて従へらけぬべし。
されば言ふなり従へきなる事にて従わろ悪き
よそ忍はく書きかしき事どもありし
俳諧とよく漢語つらねもあるにみえていふ方
さことはそはへてしかれは言と耳絶まぬて何つ
はしきつたる下物といふ物語をもて留る所欲俳諧
ふるとまし彼押さ中ふれしといふ一冊子にて治定の意をと

いふ事のみなれば義なども物語をもてさなれはいへる
なり。され氣理とも良年とも多流とも良之
とも いふなどひの詞意なきしとつらい詞し
後に物語にかきへい多くに耶是比須やとも いい
もなければ詞わりみ中まらけく下まわたる歌の言
聞わりみとも思ひなとやわりと是等の要人わ
な人のよみし所ふとみるふ添ましき俤くみされぬべし
しなきは又讀みたる物の中に三讀めの事は而の言をふかて
とみ 或は良年おうかいは雨の間よしかしといふ是等を
その言葉のもしと意なきもしくは恐ししなほよ

物語の字 字に書す

つとそきのしとおけの

廿余ハ子カ一家ノ大言ナラシ覚セ一ツ事ヲ見ナラシ
多ル事ノアリトブさんユ我是ニ論セントスル所ア無形ノ
他ノ風ヲ而シハ是等ノ事ハ枝葉ニモ足ラズ故ニ力ヲ
尽シテ麦ニ不争ハ彼見龍門麦林風ノ門下及ヒ
諸他ノ徒コタヘズシハ有ルベカラザル事ナシハ我ニ於テハ
不言ハ依ツテ麦ニ子ニ告ル事アリ 加賀希因 伴帰
麦林 江戸柳居 廿門ノ人々ノ見ハ子カ兼テ知ル所
ナシハ論スルニ及ハズ 廿切字并三トメノ事ハ患ツ
貞徳門ニ帰ス 廿衆多々ナリ 子ガ読終ニ是等ノ為ニ

折ルカシ事ヲ思フヨリ其元ヲフトメ学ニ博ク書
ヲ尋子テ侍玉ハヾ必ス工ルカセニスル事ナカレ

麦ま哉のこゝろをしらく物語わるし芭蕉翁の松のこ
越の国を行めくりて 加賀の国小松てふ所にて侍る
かの国金沢の国府に万子てふ人 廿松とよは他界
あれ中とあらひくやまたたびの佛とおりふしくらし
そひこゝろをそれ小松能順翁人おもしこゝろを 廿
芭蕉翁ひとたび傷こえし中をこゝろ言傳ほとを伎家子
まかひしたるしげえまりに能順わかりしぞ行くれと
ありく謂ひ語らひかるに中にまかせ代の日か祭ふうしの

遊びし余連歌の事どもををちこち承る履歴し
る覧なり記といふ本にあらし由にもをはいつわ
家持のすべきあらし給ふとおれ礼然

林間にもみぢ（落）しら数のゆふへふるとはう
いふをあらいあはじと変なり記しすゑ。ねあるしの白
さかりくるへなう今一句をよみくすまへたまへるはなれ
みえらく唱へうるをすぐあらしぬいゑくをこいすしても
似げ言葉にしられ人しくおんもてこゝかよいも津に
いへ由を貴しぬる中にも今宵いまうぬ物がたりし御を
高子おれしのあへよりく由らへ記されかくし候人を

ねうとしいくほどもなき世なれば いくばくのいのち（乱）
入りのみいはこゝ何事に隆わしくおのゝやと高子も
うき世にもおけしもぬれ居てけり（平）みしくおとなしとあけり
らひ生きる所へさしいふに君法師の気ある（大人）うしふ何
事よいけしき悪しのみいはゞこちもつ白をおやまいう
そうらし悔びられさしとこへは其法師のいゝるさし（大人）
むしをむどんいし御ふとすむそでおはいふ文と（分別）よいるわしにも
よろすくの由を貴しても涙くしふかのれかよみせ
をば林間しるへくお家と源氏なれとかりあくすると
いはしは何事ぞや 秋風はとあらざれどさとはのほどき

ことわりもあらしはされぬをさらえんへおもく人にも忌
俳諧はくしむ事の清ましさまとあされしめとなりぬと
おくんもやきらしに作えをれハやすらつとたちまち仰せ
あはくかさのくおへたまへしとかなうやく詞ひはくらい
て後ふりてハ御そうけさしくあはれをあれハ小なる
人くはらはく俳諧の連歌を貶し後まで道を定へなる
されと此あくこ仏ゆかされ歎くくいれいらなまことを
津そはくらうにをらしつ誉でなかりくさて
誹りつ俳風かとあうされハ下の七言とくのを除物と
こいかしとかでふる事しらひあると則左白とハふる

此事あらはけしからぬ能順らしれ、ひてはたく人おひくを
いらく浅ミにもしらまた此中ハとに其の孫能舜ねし
はまみく猶いよし時のありし神とかりとかはとの
清らひのこをうすそのかくくは存じ見れるおとこも在く
ともにすし事あれいをこしも証とよにあれとハ
能順の作は深りおほしきみ大饒わくまの詞の
めぐみをうかりてゆかへおいさかんに任ぬしきにき
候くしゑくへハ誹をあつのもおぼくいとしくあなむ
へきは人よきさけのゆるこれと並くなることハ誹てを
とおもひはりてよたくしくき神社なり　道乃事と

新らしくしおくかの花をわかちばかりさ給ふ 仏
ほくらくさしうたくあらしき中ありと極り給ふ
くちうは 或の論言ニ不載

卅一條 卅一巻ノ趣本ト覚ヘタリ入ラナルニ翡壱ナル證人ヲモ引キ而シテ我ノ議論ヲモ不書故ニ卅一段ニ論アハ而江次有テ不論アハ金澤ニ生シ又小松ニ居スル事丑六年 卅一詠ハ幼児ヨリヨリ出ナリ又證トスル所モアリ 卅百子ノ条十九両方トイフ人モ在合テ其後一决證タルヘシ 卅話トハ相違ニ為シ後来別書ニ廿日ノ論場ヲ記スベシ是ハ他ニ譲ラホルノ一條ノミ

俳諧あるかはらハすへばてふ事とあけばけ至近法の斤分

俳諧といふ物いらしくすゑばと云れハ甚はしかる是じめ給人と詞を論かびてありあれ風鳳も出よ如けきしと吾と共とソかさ給まらくむ結の品はと御くと他ねど音なくも悪しけくも甚詞のばくはとあや仰しさつらしさかを御くらはらりまよかく給さ給と事物でたりこれかくくれなりけりいひまやしくくすとを紀かしこを従メあるハ法と思ひとらけ治等あ給と云事をもて仕事なりとすさまなかんひて

ゑみ物をあよい物ゝ商人の蔚て物の形をあれて
又悪しき人といへども国をおさめよし徒を異にすれい
みたのひいすへいとうかつ物を悪所よりみその
筆て物のおろく能き詞をとりのへば事ば
隠してもむのあれて形をくく誠の言ゆ筆を立ら
人の年へいかひくるゆえさま事と云れをこハまと
き筆て物のうつ物をたゝは悪しむ人ハたくい
詞のかとをもはまへはこ物よりはき者しやとも
以あれ物ふ事をうれく留メ或をみ事をタ人ゆ
はゞけのみ多れ多れとい皆悪きなりとばりく

為へ入りく言葉の例よりは事物よ故也さ小ゝ
をうをうをいかむうをれ事ゆくさるあ形とのを年
のあ居きしをうとおけうむおのをくく悪きしを紀
けをいかくあけはうく方をうを言ハ是為ゆ
これハみくれ多の悪ハやよりは悪をうれうけは
なと言よをうを例を出ハ色をれとをを紀
くさし二くさしけをれくはけまりをれる頃けく
言をを物をに

所ハ例の言葉ハ人自賢より知人ん
事ゆ永ゆハりて紀ニイタしハ神ニ於イテハ議論

スル所ナレ世ノ訕諧者流實ニサニ新ナルモアリ
ナレド事ツゲ理ヲ曲ニ迂ルミミ疎ナルアルヘシ是等
形ヲ専トスル訕徒ノ顔ハヘキ事ナレハ我ハ欺ク不云
然ド假名遣ト言葉つゞきノ華飾ハ家ノ是ト
スルハ彼ハ家ニテハ此トスル多ヒヨリ顧ミテ言ヲ吐ヘ
或日物ニ紀せし所謂おもしろき物をしみけ
近江よみ物あつかはず
やけられいつも吾けの俳諧なるよみし時はその友
がれいよしと賞とて家人居てかきし今こそ
なる中よもその人々は知とく書行るは

よく今よめ故を友が秘めて吾を抑へしはいま
まみゆしされと今れ家をおぼしそのまだはし俳
ここれ身かとりふ家はむくさも見ゆらん家々
吾ゆゑとぞ行ける人にゆるものし法なんくあるゆゑ
くきくしえ哉

居るの江くやいかん望いやん
さくられどむらくまみらはく
潮さわま補風さかひた川の所
園あれくむしてのふ水草いせし
今見まと湖の月の花の底まり

世間を捨てゆく方のようくひとの話
夕ぐれきれ雲の間ほのぼのとおぼろ月
地のんしばしとなみのうへの夜
ほろほろと雨降かかるほろ降
かくまぼろしの雲をくるよ入る
妹しなやしたわる衣らけうえ
はるをわくれらけ衣ぬきし
こゝ木の柳ながれ青ぬし
世多くひれ行方四重集てふ冊子より出せり
世條之又自讃ノ事ノヽ行分ノ詩ト云ル月ヨリ見ハ

カリモアラヒ我カ情ヲ好メルヨリ見レハ世々多クハ
景ニ落テ魂ナシ没シテ系氣理他ノモノモ
交ルヲ見ル去ル所ヲ行方トテ字ヒ
カラヒホニアヘシ若葉ゾイモトヒテ
世界ハ識ニヨシ行方皆如此ナラヒニハ又尊トシ
是行方トテモ我無形ノ他語ヲ迎ヒザルガ故也
體用ノ言ヲ見ルヤウ俗
他語ニアル行方ノ行ノ粹ノ言ヒヒ
ヒ物ノ行方多ク俗ニ変ヒ中ヒ
あるを多くハ西ら畑ら植物ノ麦苗田畑ヒ

雨降り居候ハ云ふ数を知られ
候まらけ田とい物まき方まもまるとあるべ
田らけ物らけ乳と又おの田を入れていハ行いいむ
まをとらはこすま解の田とれしく麦まれ麦苗を
踏ふに故よ候よ是の名まれ麦なる物の詞
ともれ和名抄ハ畑らやを麦苗やを麦白よ
いひんらたしむい雑し雨降りなくといへどやや
ばしく雨降りといへどけるべるらひを是よ
るひしく宝しらまいすや
古来い世詞ハ教へしに代と変に思フハうす他門

ノ寶鑑セト詞詞諧ニセトヲニイハザルヲ取リ爾言ヲ
ハ代ルヲ答レトス然ラハ是梅ヲ以テ松ヲ
下知スルニ似タリ彼レ服セサル事頗然タリ秋
蕉門ノ年ヘハ雨ノ降リ出テモ雅也雨降リトモ
ツヽキニ依テ雅ナラン田ヲ畑ヲ麦トスルニ
到ツテハ形ノ詞諧也題ノ事ナレハ秋ハ不論也

ごはしらを始 上巻

ごはしらを始 下巻

目録

一 季方しりし事 付 ものはらふ事
言の心ぶえ寅之論
一 學の事
一 京わ学と他諸のまなびとをけらめ付
わけはうし条
一 他諸の京てし事とわけつらし
一 道わ事

一 ものがたりを あげつらふ
一 文の支離 仮名 ひらがな事
一 學をあらして言の葉 代名詞 支
一 言語 ものがたりけはらふ
一 事 法 の 古例
一 文字 音 の 古例

附録

花月一枝論 冊子 ものがたり 一条を
ものがたりかけ あげつらふ

世俗ハ 無書ニ不記留

一夜論ノ多ヘニ於テハ其アツカル人ノ
アしハ 我論スベキ事ニアラズ 其上世論
文芸 門ノ説ニ似タレハ 条々 悪ノ源
事ヲ欲セス故ニハブリ

やうにいしくく侍 下文奏

事方ことの事を論ず

言葉の事

是まいにしへ意の新なる事をまれ物語たりけるを
いかゞ所とんらをいひけるとよみく物のもとめをとる
ことを細語がるいとかれをまことに言ふ又 妹子に
こい歌とりて言はれしとて見まへる五十の故語の歌言
なりを妹代用の義の〳〵きらふ物語なりとをの
野は言ふらりを除こ言れしをいふ〳〵
のかみ 青丁 詞を入れく歌と言ふよみ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世系いまの一家の言ふように霞の春のことアラズ

詮ずる所は春に定る事勿論にて世人多くこれに

訛謬より人負徳出うしうて訳なせうしへし世他の事

ばかりへスべき道にも也ず我道にも季節なくして

心ト也ず哲の外形のみに陥つ事うし世上の他定季節に

ナヅマさうこ事う敢スしに未タ口外セズ又ハ則

我に勧キスル人ノコトシ危哉

八代集以下おほ[illegible]の[illegible]を撰まれしとて

ハ[illegible]ばかりをおほくとられ[illegible]

も短かいほ乃ちとれを故よ[illegible]も妹

もとられをこふ[illegible]れ隙[illegible]れの雨とも

しへき物を彼他諸ゴとよい事をくみよしくれ

とばかりよりつれいはふわきまへ[illegible]

拾遺集ハ中ト[illegible]れ[illegible]雨[illegible]

是等を何とか言ハ[illegible]

世海言葉

又[illegible]書よりく

[illegible]年ハ季の月ニ流てい[illegible]見ル義き
事ゆゑ[illegible]書[illegible]冊まと[illegible]ハ[illegible]伊勢物語
[illegible]業平朝臣雅言歌王のかへしせり[illegible]作遣りよ
[illegible]

[illegible]

[illegible]ふ物[illegible]ふ[illegible]
[illegible]詠み[illegible]作[illegible]
[illegible]和歌中[illegible]仙諸[illegible]
[illegible]人[illegible]者[illegible]
[illegible]

世一条殿門ノ帝ニ流り所せ四ニ入ッシ[illegible]人形ニ

引かしへかうス 往 季命ヲ表トし詞ヲアつかフラ
仙ル詞士達ヒ君アラハアナセ玉へ
又曰乃[illegible]
を詠し事どもを[illegible]
[illegible]
[illegible]

涼しくとゝまる事しばらく無しとしらい所ゝ池の中も
蓮の葉(カヒラツヤノスヽキトナ)他陸地とよませ給へるも又いうも
てしかくこれらの事はなかるべきなるべし
是うしに

如一條小理アレドモ角アリ偏ニ落レタルヘシ季節
ツレイフ所ウヒトスレハ大リニサハル事ナルモノナリ
有ノ翁ニ秋ノ詞ヲカイメウシ暑シトテイトヒシカ
セトハイカヾ只心ノ中ニハ季ニ不係ル氣色ヲ動シ
形ハ世上ノ季制ニシタカフヘキ事ナリ人和ノ役ハ
小伽藍ニアラス是我門ニ勤ムル所ナリ

言ヒ君狭孔ノ小須ヒ長所トリ人男ヲ立ルハ伽藍
を始ヘ大ヒ是ヒ如ク此ヒ所ヒ此ヒ所ヒ此ヒ所ヒ
所をヒ今ヒ一向ヒ学ヒ事ヒ此ヒ男ヒ所
ヒ孔ヒ時ヒ親ヒ所ヒ
所ヒ

七年もすぎぬとそへい長さもき
おのもとにかくもとにしきてしかの長因ニ
是いまし伽藍の者ハをまねうしざるん又時ヒ孔
所ヒ孝ヒ物ヒ吾ヒ
ヒいヒ親ヒ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世一傑ハ行カ門ナレハ他ヨリ云フヘキ事
ニハアラズ然レトモ若狭ノ老子ヲシテ愚ニ等シク
ハアラスマ春ヲ[illegible]ヲシレストシテイトヲカナシキト
イハンヨリ唯行トモイハザル方孫勝ニスヘク侍ラシヤ

又曰上ニ業平ノ京ヲ置キ後ニ若狭ノ男ノ京ヲ置ク
是ハ余行ナル釣合ヲ春ヲモイトヲイトヲ思ヒ
トモフトウヲ魂ニ入リ情ニ入ルヘシトモ見ルヘシ是ハ只
不ニ行ヲフヲ大ヲ水トスル俗説ノ理化ニ同シカラ
ヒシ子表ニハ直ノ詞ヲ好キ玉ヘニ趣向技巧ニハ理
化ヲニヌカレズトハ思ハンし

序ニ暑意ヲアラ[illegible]ル俳優芭蕉ノ對話
ハ今ノ物語リヲ以テ古意ヲ解ス是コトニ趣意ア
ラシカト思ヘリ是ハ北国ニ杖ヲ曳シトシテノ事ニ
ハ[illegible]無冊子 我カ[illegible] 捨カタキトキハ對法物侍ノ中

芭蕉翁ノ是ノ者ヘテ始ハ語リツ炉風ハトアラサレ
バ下ト云ノハサル物ソト有ル詞ヘ世詞人ノ志ヲ彼ラ
シト能頃ニ俗ウシトナウハ千ノ一ノ相違ノ詞アリ
ト我答メシコハ才格難シ定テ知ル我ノ詩ノ変
ナウシカナハ一ノ葉ノ比ノカモノ汚ナシハ炉風ト云フ
ニハ不合ハト君ノヨシルト云事ナラシ是慮言セ
能頃芭蕉ノ世詩話ハ元禄二年八月七日後二三
年ノ作テ伊賀路ニテ柳ノ香ニノツト日ノ出ル
山路我ト云フ句アリ元禄七年炭俵集ニモル芭蕉
作在世ヘ之シ安特ニノ我ニアシキニ服セハイカシヅ
変ニ世ヘウシマニ寄テ八九間立テ雨ル柳我ノ我ハ
ヨリ柳ノ香ニ山路我ノ我ハ不叶ハト謂リ玉フト
ヌケリ秋門ニテハ変ニ多解アリテイツシモ金玉
ノ吟トス然シハ炉風ニノ詞ノ語ルトモフ事ハ
アラズ子モ又炭俵集ノ知ル芭蕉ノ心服セザル
事既ニ知リ侍ルコト語テリトウモイ出モ又
尊ムヘキ支ナリトハイカヾ蕉翁ハ泉ノ墓ノ所ヘ
依テ是慮言ノカニヘテ泉ノ釣ルニアラザル唯
明テカニ芭蕉ニハノ知ウズト云玉ヘ我ヨリ
蕉翁ニ代ツテ其所セン世一条ナホニ月花ノ

見ントイフ人ニハ遠ク相違ノ心入ニナルヘシ

學ノ事

凡他諸ヲ学ブ事ハ先ヅ事ヲ学ブヲ本トスル事ニテ他諸ヲ学ブニ物ノ名ヲ学ブ連歌トスル物ノ名ヲ学ブニ其ノ範ヲ学ブ物ノ名ハ他諸ノ連歌ヨリモ連歌ニテ

歌人響応 他諸人歌を集
今月三十日をわけはらふ際

爰に京にて高を入れて又他諸人歌を撰出せんと世
にしたがひて帰りて言ひ初めたるを
いとしたがひにたる他諸人のきくに世の中
人事をよく心にものかばけれども京の書
にいはれを爰人に冊子をよみ
ゑんにまして意味にて又物月花
を入れて三十一言人の代きけど是を
ゆうたいといふ十七記の京も来て

みやびをさいとしたがひ
ありたといふ又他諸人
と爰にて又ものを書
古きあるをかたり忘れ
集他諸人歌を撰出
はんとしては人
まれ人のをかしき
あり年をきこえ
ひらや物語是を楽し
ひらや物語後の京集物語のをかいと
やはりまれと又他諸人おもしろ
みれ感

多くなりて真実の境界を失ひ明らかに是全く正
法範なるのみならず又世間をみれば多くは
改悪を事とせるを思いとなすもの
世系に教訓せ誰かは新り思いはすし人こ皆
我道理アリトノ思いメ億ノ人ノ中世論こ
依テ宗道学ノ人モアルベシ予ニ於テハ唯
十年前ノ昔ニ自力カコトシノモノニ一文不通ノ
読ノ一向宗ノ家ニ積ル人多シ立ガミタル訛語還
テ古ノ法ノ明ラカナル人多カラシモハカラシズ

仏語ノ家ニ事を論ス

世ニ真宗ナルシ形を家トスル仏語ハ何ノ為ニ
ヲ以テ世ト同ジ様ニ交ル物
ハ何ニ若ヘテ云ヘバ俗ニ高低ト交ル物
ヲ以テ人ノ仏語ヲ俗話ト云ハ
是ヲ家ノ人ノ形ヤ仏ノ形ニ
ヨリ俗ノ形ヲ見ル事ヲ以テ
ヲ以テ交ル事ヲ以テ人ノ事
ヲ以テ人ノ事ヲ以テ今ノ世
い上ヲ以テ人ノ事ヲ以テ仏語
ヲ以テ人ノ事ヲ以テ下
ヲ以テ人ノ事ヲ以テ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世間ハ蓮如ノ詞シテ二十又ハ降ノ長語ハ大ナル
ヅリ小ナルヅリ千里ノ行モ一歩ヨリ始ル妙語ニ
アリ子ノ今日ノ事ヲ吐リモ又皆世一語ノ
助ケナリ可ト
又四子俗談平話ノ正スト覓ヘタル代尊ムベシ
同シ他門ノ中ニ他諸ハ俗話ハ伝説ヲ伝セト説者アリ
多語ニシテ正スノ字ハ忘ルベカラズ

凡人事

凡人ハ言キシ俗ニ曰ク仏道ハ忘レ易ク
ヒラ直ニ直ニ行ベキ事ナリ 事

唯ヒラ直ニ直ニ行ベキ事ナリ他諸ハ俗話ニシテ
ヒラ直ハ直ハ直ニ言ヒシ如ク
ヒラ直ニ言ヒシ如ク
たいしも如ニ
京所衣ヲ
他諸
ヒラ直ニ
ヒラ直ニ
ヒラ直ニ

[illegible]人をいかにしてかなしい叫び[illegible]
人をいもうとをいとおしいとおもふ人をば
[illegible]しと知り上面くいかの人[illegible]
仰語ふ[illegible]みおしと深く[illegible]
[illegible]をしくしく[illegible]
[illegible]今悔[illegible]

廿一章之教訓ノ事也言世無悔ヘキ世[illegible]
[illegible]別と名[illegible]語より但仰語ノミニ限らず諸[illegible]多
[illegible]新 [illegible]十二[illegible]別[illegible]地下ノ[illegible]と詩人茶家人
[illegible]居の姿[illegible]より見[illegible]細語ハ[illegible]ニ譲し物[illegible]ハ[illegible]

[illegible]し[illegible]論

凡仰語ふ[illegible]小過ふ人のもろはだしい[illegible]深きあせ
見をふんふふ[illegible]
[illegible]きふと東[illegible]面[illegible]面[illegible]
[illegible]親[illegible]
[illegible]ちから[illegible]ちゐみ深ノ又
[illegible]人を敬[illegible]處を進退をとふふい
憂を塗いし上みを建[illegible]跡ノ面[illegible]
[illegible]日を[illegible]人を友[illegible]
[illegible]事是[illegible]多ハし[illegible]
ししべふを

此一条他門ヲ補セラルルニハ遠ツテ祈ツ近年ニ到テ
カリモアラズ多病多情多ク但シ素シル人ニモ依リ
留ル所ニモ依リ待ルヤウニ又友ノ遠方ヨリ来シルハ
若子モ悦ブ所百人ヲ集ルハ人稀アラハ行ノ
憂ノ人トシテカ如此ナラサウシ親シミ言トモ暫ル
いかうズ浸リニ他門ノミ有ライカラスベアラズ
その志を用ヲ者いさしらの遠へうを他しをかいしいもむ
ゑ山の雙林寺ハ長録を求ル建ル いし
みわを見る ゆゆ明る男はちさ内を病へ
まちてしらおとしも山のれ分れ中ハ言叩こ

詞ハ多いたれ又假合ハ語りもはり是ヲ要略
て来事をにて彼ヲ百ろしれ友うれ 春之
それい意ハ時ハ思ヲくるへく集をまけると
之ハ他ヲうをハ保ハ者をくるへばるやく彼
いしみハ多ハまをしたるれ代ハれはま
へ発ん度いまにやさる事これ思ハ彼さ しの
詩ハいいなる

雙林寺ノ解語有ル事共門ノ人ハ才格ヘナラス
論ヒヲ反ムヘキ事ニヤ我ハ文考ヲ以テヨシトセス其門ノ
早風ヲ尊ク者トスハ文ニ於テハ不論ヒ

[illegible]みさうなる他語[illegible]
[illegible]世ノ人傷しもれ教を知れ
[illegible]知[illegible]てゝ是を改る事
[illegible]もゝみやゝその忘しきを恨
事をき[illegible]を慣[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]とうけさし又度乃世れ文さ面吹む人々
[illegible]今集の序さ[illegible]ぎ[illegible]ぎ[illegible]ぎ[illegible]物語[illegible]乃久うら
[illegible]ぎ[illegible]ぎ[illegible]ぎ

ニテ学ブベキ文ノ道ナラン又出家トモノコト近セト
イヤシメラルベキ心得カラシ文章タクミ僧家ノ変ヲ
来ツテ雅トナル心物せ

學ぶうしろ言ふ所なのむ事

学ぶ人ハ人ノ学ぶ所ハ世ノ事ノ物ノ人ハ人ハ人ハ院ノ業年期ノ侍ノ
かたらしてそこ言ふ事をいてやおほをけ
仕ふる人ハ人ハ市ノ事をまいる駿ノ人言ハ
ノ事をいふ事をしる人ノ人ノ人ノ人ハ人ノ事ハ
れく又何ノ学ハいしかもしつ

き事ハかくはずい乱しかも仏語ハ身ノ
くるハ以ハ事ハ事ハ人ハ人ハ人ハ人ハ
人ハかはいなかいハ人ハ人ハ業ノ
いハ月花をかくれをやしとおりと言論ハ
ハ人ハ人ハ人ハ仏語ノ人ハハ又仏語
ハ物ハ是ハ人ハ人ハ人ハ人ハ人ハ
ハ人ハ中ハ人ハ中ノ人ハ何ノ是ハ
ハ人ハ人ハ言ハ言ハ言

是を学ぶ（まなぶ）に文字の如く唯（ただ）
ひたすらに読み覚えて
強ひて集のかずも多くはさほどなきものを
かくまでなる天暦人ゆせよりなせる
さらぬ物ゆゑ
なほこれ作者はいとよせ給ふかくるほど
心を直（ただ）しくいとこまやかなれば
をうるにしたがひて
いくばくの日数をかさねて
世一条別に聖人事なし若い牧不修（フスナ）アリテ六芸ノ
芸トセズ安キヲ又苦シトスルモ其性ニ依ル且ツ直ナル
諸ヲ引カヘリ曲ナルハ多シ然シニ他人ノ理化ニ
ノミ逆フ人ハ我モ又好ミナル所ヲ誠ニ苦シケニ見エ且
又他諸ノ去様イヲ苦シトハイカニ是ハ詩ノ音楽
ニ方シ絃曲ノ難物ニ苦シムガ如ク看ノシヲ脱シテ苦アル
事ナリ逆フテ楽シミトナルハヨリ難ク詩ニ交リシ人ト見エ
又或人ノオナケシハ他諸ナリトモ学ブトモヲ是ハ
大ナル誤リトハ形ニイアニ大方ノ人後ヲハトモアレ
初メハカリ思ヒ入ル支人情ノ意人彼千里ノ行モ
一歩ニハジムル也行ノ始ル支カアラン

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よみ出でたるもいとゝ言ふ甲斐なくぞ侍
べつゝ詞のはしたなき今にいかゝことゝ取て例
とたゝけさまを口ずさみ入みられくゝ見たるま
よりの言を唱へるもいとゝ多くい字音にて詞
ゆゝしきに仏の文よりも詞をかゝいしれしく
ゝき新き言はゞ出わなゝい是第一事ども
ゝいだにみるを文化の歌も読みかゝて
ゝゝるゝ多くべき神祇の言葉の言ゝ
なのだまけやまし言わるゝとすわゝ早り見ゝ
故わるゝをゝくまえていゝ言葉多いゝ神祇

いゝの事よりて祈ど家ゝい春に言語ノ年号通語ニ載ス世ま世
又今人世より詞ゝ
皆ゝゝをはゝくゝ詞ゝ神ゝれゝ
人ゝれたるゝいをゝ
ゝゝ詞ゝ雅俗ゝ方ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ女蓁蓁ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
じるゝゝゝゝゝゝゝ
山ゝゝ国ゝゝゝゝゝ

言葉なり。言霊千羽破神の御代よりこの
後、書し詞なれと言葉ゆきまおりいたらくい
波久しく絶しはの年月剰さへ遠かり若やよ
何と言詞しも久しく後世いまだに今是を
すくいとなるこみ歌こと語ハ人すくなく
けれども多をすけいあやしき国を平ふく是
その別さとかくらくなるかしくうけをかと
く後世ことの詞を移むこころといさとりと
さらくと説しさるこをそらくといふものなれと

さらに又立所本記云しく定所古京なまく定所本記ちをつ
けれなるこ人すくら古語なれ彼他語ふりと用れ
言葉は是をそなわるこもしくしこ
世一余変に到コフハ他語ハ若橋ノ書ノ如トカ
ク人に秋蔭日に迫に玉に
をかゆ中と言葉青くつ国ハ皆国語なくしこ又新しき
言葉ものいくも是とても院と寧楽ノ朝のに
ものと分も他ノみ人見ものされと中国訳を正にて
らへと言葉を用るハ是事とはあらはゆきが
又言御ものさもとしも院と少なくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世余理り七万葉ハ新ナル二ヘニ道ニ万葉ノ
心ヲトリ詞ヲ折々ニ加ヘテ自分ノヽマヒトスエアモ卯ノ
ヽ使リセシトテ古調和歌言トヽシ四五年先キニ書キ
出セリ此度ノ集ハ我道門ヘ皆荷擔ノ詞也

平話八多くらい

長屋　古家　人魂　菖蒲　菖花　芋葉　蕨　蕗
合歓花　萩青　毛桃　茱萸花　油火
[illegible]　いつも　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　かまくら　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

香樂　波羅門　力士　僧　法師等　鉢

饌　六　功示甲者　位の冠

ふれくれ多くしい葉とみくれ又鎌倉古たにい
体童の紅い梅ともとみ八大龍王れと代　ろ
とかも作るしの変ともて仏先世たのしとよ
よみなく度の詞ゆ音れと強くなりと事
まるれば多遠しく詞いるくの詞をもれまと
なくよみはくれくせとも人も使へしもいて
面形い体悟しき事ならば

是等ノ条々別ニ論ナシ知ル人ハ自ラ知リナンノミ且ツ
我道門ノ字音ヲ用ル事ハ是ノミヲ極トスルニアラズ
直ク詩ヲ断ズ、又仏経ヲモ入ル是只形ニ
ヨイウ不意情ニ近ヒヒケリ
近てそれ言の多くしたるけて工夫と
ふくよ仏事ならをたしくほれとつくいなるい
くいはいを情ふれ形の世とれくをほ世よつくい外
ならいい現とくふをい変れるくしくれわ
此一條理リナカラ只作言直ノ信書ニ似タリ実モ
シモヒヒナトハ同音ナレハヨモナカラル事モアラン

思慮（クヒヒアル）相心（クヒヒアル）ナレハ字ヲ付ナヒヒヒ

改う事いとうるしをうるまきぬを用ひて
忘よを作く吾しはらくは花検くの白玉をうゑ紙にて
おもしろ〳〵志のうくとも花をもてはやしくもはらくとも
天地開けし時よりの月を用ひて雪いろふるる事
をうるふまへさに物らと人といもむかひと結ぶ
かくはゆくりなき白方ならん人世者へからむ庭

といしく侍下る春侍

世一條を別に論スへキホトニモアラス斤男授ノ変ハ
一読ノ事ノミ俗稱ノ事ニテモ仏語ニハ用ヰ入ル新ル
事ハ多シ山至つるの詩ニマ顧ルニ古衣ノ論アリテハ
白玉ノメトヘつタナシ中華ノ服ノ変リトテ戎夷ノ
新キニヤヘシテ白玉募ナリトモ羅義ナリテハ盛ム
ヒ道ノ示サシトテ怨ラ示タニ似タリハ風流ノ向フ
所ノコリ道トセシ世ヤノ古人皆宣 忘人ノミ
ナラシマ 宗徒ノ悪トシ負徳 ウ早トスヘキトフんナリ 上代ノ詞モ用ヰヘシ昔代ノ
詞モ又用ヰヘシ 心鏡明カナランニハ誰カ誰ニ徂セ
旦つ子カ詞 世段 心ノ段ハ深ノカヘんヨリ下スしハハ

イカさん平理ノ詞ハ又白玉うこゝ[illegible]ト如シトモ桑俗
怒ノ理ノ詞誰カ方ノヘケン惡喚百里ニ方ノ千唐
越足昔シ神皇ニ入ん左行ノ慈シテ信ラ[illegible]

さいくるはあらくへ[illegible]